

■ TPP関係国の安全保障の思惑
 米国 アジア太平洋地域でのリーダーシップの維持・強化
 日本 日米関係強化を背景にしつつ、中国との戦略的互恵関係強化
 ベトナム 貿易面での対中国依存を脱却し、中国を牽制
 ニュージーランド 米国を含むアジア太平洋地域との関係強化
 ブルネイ 米国との関係強化

年11月、日本が環太平洋経済連携協定(TPP)交渉

への参加を表明したアジア太平洋経済協力会議(APPEC)の首脳会議が終わる」とも話し、TPPを地と、会場のハワイから、豪州に飛んだ。

「米国は太平洋国家であり、ここにとどまる」。オバマ氏は、この地域での米国の存在感を高めることが国防上の「トッププライオリティー(最優先課題)」であると演説。米軍を豪州に本格的に駐留させる考えを示した。

また、「開かれた国際経済システムには、どの国も従うべき明確なルールがある」とも話し、TPPを地域を一体化させるモデルと位置づけた。

軍事、経済の両方で台頭が著しい中国を牽制しようという意図は明らかだ。民主主義、市場経済といった共通の価値観をもつ日本や豪州、東南アジア諸国連合(ASEAN)の一部と足並みをそろえ、この地域で多數派をつくるうというわけだ。TPPは、そのため

野田佳彦首相は、TPP交渉に参加について「中国を牽制する気持ちはない」と説明する。だが、長島昭久・首相補佐官(外交安全保障担当)はこう語る。「素っ裸で中国の前に立つても、いまの日本は迫力がない。中国に『なかなか手ごわい』

日本と米国でつくる」の経済的な道具立てともいえる。

ただ、思惑通りに進むかどうかは分からぬ。TPP交渉に参加する東南アジアの国々は、米国との関係強化を歓迎している。だが日本が昨秋、中国の南シナ海進出を抑える枠組みづくりをASEANに働きかけたところ、中国を刺激するのを恐れ、各国は乗つてこなかつた。「日米と中国のせめぎあいの行方を見極めようとしている」(経済産業省幹部)のが現状だ。

教へ! TPP

24

中国を牽制する狙いも?